

産業建設委員会会議録

- 1 日 時 令和6年12月19日(木曜日)
開会 午後 0時59分
閉会 午後 1時35分
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席又は欠席した委員の氏名
(出席) 委員長 三 上 周 治 副委員長 小 西 利 一
委員 太 田 善 介 委員 荒 木 将之介
委員 深 見 昌 宏 委員 小 川 進 一
委員 加 藤 保 博
(欠席) なし
(その他出席者) 議長 村 木 理 英
- 4 職務のため出席した議会事務局職員の職氏名
議会事務局長 西 村 佳 子 同次長 宇 野 裕
同庶務調査係主事 柴 田 美緒子
- 5 説明のため出席した者の職氏名
副市長 中 島 邦 夫 政策監 難 波 敏 文
政策調整課長 林 啓 二 総務部長 内 田 和 弘
財政課長 岡 真 里 産業部長 西 川 茂 弘
観光プロジェクト課長 赤 木 郁 哉 観光プロジェクト課主幹 河 原 睦 弘
観光プロジェクト課主幹 小 嶋 善 邦 建築住宅課長 八 重 信 幸
- 6 報告事項の結果
報告事項
(1) 第2回史跡作山古墳調査指導委員会の内容について
(2) 国民宿舎サンロード吉備路の修繕計画について
- 7 議事経過の概要 別紙のとおり
- 8 その他必要な事項 別紙のとおり

開会 午後0時59分

○委員長（三上周治君） ただいまから産業建設委員会を開会いたします。

本日の出席は7名全員であります。

これより、所管事務調査を行います。

それでは、報告事項(1)第2回史跡作山古墳調査指導委員会の内容について当局の報告を願います。

観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 報告事項(1)第2回史跡作山古墳調査指導委員会の内容について御報告申し上げます。

12月17日に開催されました2回目の史跡作山古墳調査指導委員会の概要を御説明いたします。

それでは、資料1の1ページを御覧ください。

①トレンチ設定場所についてでございます。

トレンチ調査を来年度から実施してまいります。赤色立体図の中で、T1からT15までの黒色の線がトレンチの位置を示しており、下表にトレンチの長さ、幅と面積、さらにその下の表に調査年度と調査区名等を記載しております。

トレンチ調査は、6箇年の調査期間内で総社市として実施可能な本数、調査行程上無理のない調査面積で設定しております。具体的には、各年度の調査期間は4箇月、面積は80㎡前後でございます。出土した遺構、遺物に対して調査員が検討する時間が長くなることを見越した期間と面積となっております。

トレンチの設定場所につきましては、墳丘規模及び形態や外表施設の配置状況、さらには墳丘と一体的に保護、保存すべき範囲を明らかにすることができる場所を一義的に考えております。個々の統一設定の基本的な考え方としては、まず墳丘主軸における規模の確定、次に後円部の規模、形態、前方墳の形態、附帯施設の確認となりますが、一つのトレンチに複数の目的を持たせているものもあります。

委員会当日には、会議室で各トレンチの設置目的を説明した後、作山古墳に赴き、委員の皆様にご各トレンチの場所を確認していただきました。現地ではトレンチ場所の変更や新設、さらには規模の拡大等をすべきなどの御意見をいただきました。そのため、これらの意見を反映したトレンチ配置図を再度作成し、その内容について宇垣委員長、岡山県教育庁文化財課及び文化庁と協議を行い、改めて委員各位にトレンチ配置図を提示し、了解を得ていくことを確認いたしました。

それでは、1枚お開きいただきまして、2ページを御覧ください。

続きまして、②次年度の予定についてでございます。

次年度の事業としては、まず年2回の史跡作山古墳調査指導委員会の開催を考えています。これは、次段の発掘調査と関係しますが、調査期間中に第1回目を、調査成果の評価を行い次年度の調査目的を決定するため2月に第2回目を開催したいと考えています。そして、9月から12月の4箇

月間の調査期間中には、委員には史跡作山古墳調査指導委員会のほかに少なくとも1回は現地指導をいただくことになりました。

発掘調査といたしましては、先ほども申し上げましたが、9月から12月に実施します。その前には地表面観察から外表施設の状況を把握して、その範囲等をプロットもしくは図化を考えておりました。今年度中に必要最低限の測量くい打設を行います。また、今年度の予算が許せば、赤色立体地図を用いて立面図の作成も考えております。

資料整理等につきましては、年度当初から作山古墳に関する文献、近世地誌類、市町村史、学史などを調べまして、作山古墳が地元でどのように取り扱われてきたかなどの確認や表採遺物を含む出土品の整理を進めてまいります。また、報告書作成のため発掘調査期間中から遺物整理を進めてまいりたいと思っております。

最後に、公開・活用ですが、現在予定しているものとして、発掘調査が始まる直前に市民にこの事業の周知を図る講演会、発掘調査期間中に現地説明会を開催いたします。そのほか、SNS等を利用した情報発信を積極的に行います。その他といたしまして、作山古墳の重要性を次世代に伝えるため、学校現場との連携を図ればと考えております。

これらの事務局からの説明に、委員からは市民が作山古墳を身近に感じられ、さらには地域愛を育むことができるように事業を進めていくべきなどの御意見をいただきました。

報告は以上でございます。

○委員長（三上周治君） これより、質疑に入ります。

質疑はありませんか。

太田委員。

○委員（太田善介君） すみません、詳しくないので、教えてください。

この今ある上から見た図というのは、これは超音波か何かで土の中が見えてる状態なのか想像図なのかを教えてください。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） こちらのほうはヘリコプターを飛ばしまして、実際上空からレーダーを飛ばしまして、それに伴ってこの立体面を測定した成果品でございます。

○委員長（三上周治君） 太田委員。

○委員（太田善介君） であれば、もう大体の構造とか形は分かかって、そこにトレンチという溝をつけて実際にあるかどうかを確認するのをやっていこうという話でいいですか。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 委員おっしゃるとおりでございます、これがこれからトレンチをしていくに当たっても貴重な外形といいますか、高低差とかもこれである程度分かりますので、貴重なデータになって、これを基にこれから発掘調査を進めていこうとする次第でございます。

○委員長（三上周治君） 太田委員。

○委員（太田善介君） こういうトレンチ調査というのは今までは一度もされてきてない、今回初めてということですか。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） この作山古墳につきましては今まで実施したことがございません。

○委員長（三上周治君） いいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 他に質疑はありませんか。

加藤委員。

○委員（加藤保博君） すみません、初歩的なことで、資料2の資料整理のところ、埴輪の何かと書いてあるあれ、読めんし、どういうことか分からんですけど、分かりやすく説明願えればと思います。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課主幹。

○観光プロジェクト課主幹（小嶋善邦君） こちらのほう、埴輪の「しっかいちょうさ」というふうに読みます。資料の悉皆調査というこの具体的な内容なんですけども、これまで総社市が作山古墳の周辺で調査を行っていたときに出土した埴輪、また総社市以外にもそのほか岡山県立博物館、あと岡山大学等に作山古墳から拾ったと言われている埴輪が保管されております。これらの埴輪の資料を悉皆的に全部調べまして、今後これ以降発掘調査で出土した埴輪と見比べて、それらの埴輪について詳しい年代、作り方、これらを調べるのを考えている次第でございます。

あと、胎土分析というものもございまして、こちら胎土分析というのは、埴輪を作るときに使われていた土、粘土を調べます。これらを科学的に分析することによって、ある一群、様々なブロックごとの分析結果が異なるようなことも出てきます。そうすると、この埴輪がどこで作られたのか、どういう人たちが作ったのかということが分かる可能性があるため、今回胎土分析というものも行う予定でございます。

（「ありがとうございました」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 深見委員。

○委員（深見昌宏君） 私は2ページ目の一番最後の公開とか活用とかという、要はずばらしいことをやっていただけるということは重々分かりましたけれど、今後この活用とかということに関して、発信も含めて、どのようなお考えがあるのか。多分一つの課だけでは駄目なことだと思うし、教育委員会ともいろいろ話をしながら、今後これをどういうふうにかに活用していけるかという、分かる範囲の中で決まってないことも含めて教えていただければと思います。

○委員長（三上周治君） 産業部長。

○産業部長（西川 茂君） 公開とかSNS等の発信とかにつきましては大変重要だというふう

私どもも考えております。先日も初めて現地説明会をやったら、2日で申込みも埋まったような状況でございまして、市民の方、市民に限らず興味をかなり持っている方がいらっしゃるというふうに実感したところでございます。

できるだけいろんな形で発信はしたいと思っています。ただ、前回もいろいろ係員とも話をしましたが、素人の方とか専門的にもっと知りたいんだという方、いろいろいらっしゃいますんで、ある程度ターゲットを絞ったものを幾つかやって、全ての方に興味を持っていただけるようなことを少し考えていったらどうかなというふうに話をしたところでございます。講演会、それから現地説明会、それからSNS、例えば今回の史跡作山古墳調査指導委員会の内容でございましてとか、全て公開してやらせていただいておりますので、そういった魅力とかも含めて市内外に発信していきたいと思っております。

今申し上げましたのが、一応現地説明会の公開事業としての講座という形になりますので、もちろん発掘の段階で現地での説明会もする予定で進めてまいりたいと考えております。

○委員長（三上周治君） 深見委員。

○委員（深見昌宏君） 今分かってる時点のことはお聞きしました。せっかくこういうふうなことは僕らも知り得んことがいろいろあるんで、しっかりと教育委員会を通して子どもたちに、市民の方にもいろんなこと、情報を発信していただきたいなど。これはこれからいろいろ決めていくことでもありましょから、そのところはよろしくお願ひしたいというふうに思います。答弁はいいです。

○委員長（三上周治君） 他に質疑はありませんか。

小西副委員長。

○委員（小西利一君） 今回のこういうヘリコプターから撮ったやつとか調査して、実際に公表されてる大きさとか長さとか高さが、時々山とかは測量し直すと少し変わったとかという話もよく聞くんですけど、そういうことはなくて、今資料に載ってるように、全国で10番目、岡山県で2番目ということになってるんですけど、そういうことに変化はないんですか。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） そうですね、今これから発掘をして調査をしていくに当たっては、変わっていく可能性はないとは言えないんで、あります。現時点ではまだ今のままです。

○委員長（三上周治君） 小西副委員長。

○委員（小西利一君） この全国の規模の順位とかというのは、何が基準でそういう順位になるんですか。長さ、高さ、全体の大きさ。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） この赤色立体図でいいますと、墳長と言いますが、上下の長さで今いう順番が決められてます。

○委員長（三上周治君） 他に質疑はありませんか。

加藤委員。

○委員（加藤保博君） すみません、この図の中で外枠に太い線がありますよね。その中に私の想像ですが、長年の間に民地になってるところがあるのではないかと思うんですが、トレンチするところはそうですけど、そこの中の人たちとの兼ね合いとか、何か説明をよくしてるとか、トラブルになりそうだとか、何か理解とかが得られてますか。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 12月14日の先ほど言いました講座のほうでもこれは非常に興味を示されまして、地元24件中14件、15人の方も実は現地を見に来られました。非常に興味津々で、これからどうなるかなということで、また年明けには地元の方に向けて説明会的なものを今検討しております。ですので、発掘調査につきましては民地の所有者もいらっしゃいますので、そちらとの調整が今後必要になってくると思います。

○委員長（三上周治君） 前回のときにそういう資料が全部出てたはずなんです。今日はこの2個しかないけど、いつどっかと交渉したとかというのは前出しましたよね。前の資料を帰って見てください。

（「すみませんでした」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 他に質疑はありませんか。

荒木委員。

○委員（荒木将之介君） 基本的なことなんですけれども、この図を見ていると、縁のほうばかり掘るような感じになってるんですが、このトレンチ調査というもので何が分かるのか、何を目的とするのかを改めて教えてください。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課主幹。

○観光プロジェクト課主幹（小嶋善邦君） 今回のトレンチ調査の一番の目的なんですけれども、今まで測量調査等で墳長、大体の大きさは分かっているんですけども、今回の調査の主目的としましては、正確な墳丘の大きさ、あと形をメインとしております。さらに今回の調査、作山古墳のほうにつきましては、もともとあった丘陵、丘を利用して造られたというような形と今まで言われておりますけれども、そちらのほうもトレンチ調査で証明できればというふうに考えている次第です。

○委員長（三上周治君） 荒木委員。

○委員（荒木将之介君） 市長が常々ここに誰が眠っているのかとかどんなものがあるのかということ発言されてたと思うんですけども、そういったものについてはこの大きさとか確定した後に、今回の内容とずれるかもしれないですけど、また改めて違う調査を行っていくというふうに考えてよろしいでしょうか。

○委員長（三上周治君） 今後またこういう場を設けますか。答えられますか。

観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 今後トレンチを入れる場所は変わってくるかもしれませんが、基本的には古墳は守り保存していくことが主なので、今いう誰が眠っているのかと市長がおっしゃってるのは、恐らくこの周辺部を掘ってみたり、古墳に影響がないところを最小限に掘ってみて、その時代背景であるとか出てきた遺物でもって、その畿内とかあちらと比べてみてどれぐらい当時の同じ年代で有力な方、力を持った方がここへ眠っているのかという意味で言われてるんじゃないかなと推測します。

○委員長（三上周治君） 荒木委員、いいですか。

（「はい、ありがとうございます」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 他に質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） これをもって、質疑を終結いたします。

本件については、報告を受けたということにいたします。

次に、報告事項(2)国民宿舎サンロード吉備路の修繕計画について当局の報告を願います。

観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） それでは、報告事項(2)国民宿舎サンロード吉備路の修繕計画について御説明申し上げます。

資料2の1ページを御覧ください。

資料中、左側の棒グラフは、昨年実施した劣化状況調査で判明した約半年間にわたり全館休館して対応するべき修繕内容でございまして、Ⅰ外装及び屋根修繕からⅤ外構修繕までで、当時4億2,000万円と当委員会で御報告したところですが、近年の建築資材や人件費の高騰などの物価高によりまして、現在の試算では約4億7,000万円となったところでございます。このうち昨年度から今年度にかけて毎年行われます6月にございます臨時休館日、約4日から5日毎年休館しておりますが、そちらのほうで対応できる修繕などで約9,000万円分を実施したところでございます。さらにさきの産業建設委員会などで化粧直しのさらなる修繕も必要ではないかとの御意見を踏まえまして再度検討いたしましたところ、さきの劣化状況調査の4億7,000万円、棒グラフの緑色部分に加えまして、新たに4億1,000万円の追加修繕、棒グラフのピンク色の部分でございますが、この部分を修繕しようとするものでございます。これは全照明のLED化による環境配慮のほか、お客様である利用者の快適性や満足度の向上、さらには従業員の働きやすさの向上などを図るための追加修繕を実施しようとするものでございます。したがって、現時点での修繕費は既に修繕実施済みの9,000万円を含めまして、合計、上記のとおり8億8,000万円、実施済みの先ほど御説明しました9,000万円を差し引くと7億9,000万円の修繕費を計画しているところでございます。

それでは、今回追加で修繕しよういたします箇所を御説明いたしますので、資料を1ページお開きいただきまして、2ページを御覧ください。

まず、①浴室・脱衣所の改修といたしまして、浴室内のシャワー水栓の漏水修理、劣化の見られ

る大理石から耐久性が高く傷がつきにくい人造大理石への張り替え、また摩耗した出入口等の建具改修、使用感がある洗面カウンター等の改修を考えております。このほか、浴場につきましては、既存スペースを有効活用した利用方法を、工期、費用、建物構造、排水量等の法規制などの面に配慮し検討を行っているところでございます。

②サウナ室更新修繕では、水はけが悪く腐食が見られるサウナ室の内装及び設備一式を更新修繕しようとするものでございます。

3ページを御覧ください。

③客室内装改修は、使用感のある客室内の洗面台、表装、床、天井、壁を改修するものでございます。

④大浴場エントランス等改修は、変色した床、壁、天井の貼り替え及びさび汚れや鍵の開け閉めが一部不可能になった貴重品ロッカーなどを更新するものでございます。

1枚お開きいただきまして、4ページを御覧ください。

⑤コンベンション等のカーペット更新は、コンベンションホールのカーペット全体の汚れとへたりが目立ち、破れている箇所もあるため、張り替えを実施するものでございます。

⑥観光案内センター改修につきましては、老朽化しているモニター、観光案内図の撤去及び変色した床、壁、天井を貼り替えるものでございます。

⑦従業員トイレ改修は、車椅子に対応した多目的トイレに改修するもので、ハンディキャップのあるスタッフでも働きやすい環境を整備しようとするものでございます。

⑧LED交換工事は、蛍光灯の製造・輸出入が2027年末までに禁止されることに伴いまして、全ての照明のLED化を図るために器具等の交換工事を行うものでございます。

1枚お開きいただきまして、5ページを御覧ください。

⑨駐車場整備は、防犯上の観点から駐車場に監視カメラを設置するとともに、破損した車止め等を改修するものでございます。

⑩金属屋根塗装塗り替えにつきましては、大屋根及びアーケードが色あせてさびているため、塗り替え等により屋根の寿命を延ばし、耐久性を向上させ、美観を維持しようとするものでございます。

⑪給湯制御盤更新は、吉備路温泉の湯や、各客室系統、厨房系統の湯など施設の維持に必須な制御システムが耐用年数を過ぎているため更新しようとするものでございます。

なお、これらの修繕後には、さきの産業建設委員会でも御報告いたしましたが、長寿命化計画を策定し、施設の適切な維持管理を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上でございます。

○委員長（三上周治君） これより、質疑に入ります。

質疑はありませんか。

小西副委員長。

○委員（小西利一君） 1回視察してるんで、大体のことはよく分かるんですけど、室内の改装と、あとコンベンション等のカーペットとかの内装なんですけど、その前にいつ改修したか分からないですが、建築当時の国民宿舎サンロード吉備路のイメージみたいなのが多分あって設計されてると思うんです。それに応じた感じでイメージどおりの昔のカーペットの色とか内装の壁とか、そういうのはそのまま継承していくのか、また室内を改めて最近のモダンなような形で改装をしていくのか、そういう統一感があるようなものになるのかどうか、その辺を聞かせていただけたらと思います。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） やはりある程度お金を投資しましてお化粧直し的なこともする方向でございますので、できますれば小西委員がおっしゃった後者の部分、コンセプトはある程度変わるかもしれませんが、今よりは今風のモダンなものになるか、何かコンセプトを持って色等、色調等を変えていけたらと思って、そちらでまた設計者のほうと相談して進めていきたいと思っております。

○委員長（三上周治君） 小西副委員長。

○委員（小西利一君） あと、大浴場のほうの更衣室とかロッカーなんかも相当狭かったんです、利用者には。コインロッカーもいっぱい、常に満席みたいな状態で。その辺の改修のときには広がるのか、そういうことも含めたもんなんですか。それとも今のまま、ロッカーを新しく替えたりとかするだけなんですか。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 委員おっしゃるとおり、混雑解消ができないかと非常に検討したんですが、やはり既存の構造上の抜けない柱であるとか、壁とかもいじると大変で、要は間取りを変えると色々な障害が出てきます。それから一番が工期です。今回も指定管理者を募集するときに期間を定めて募集しておりますので、その範囲内では絶対完了しなくてはならない中で何とかできないか考えたんですが、残念ながら今の時点ではもう間取りはそのままのような形なので、せめて床とか壁とか、そういう美装できるところぐらいはせめて改修していこうかと考えております。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 補足としまして、先ほど委員言われた大浴場のエントランスのところなんですけど、さびたこの貴重品ロッカーが写真に載ってるんで、それを説明申し上げたんですけど、これには載ってない下足入れ、あちらなんかも暗証番号式で入れた人が分からなくなったりするので、ああいうのもロッカーも取り替えてしまって使いやすいものに替えたり、そういうちょっとした備品的なものもなるべく更新して、利用者の方が使いやすいものにしていこうかと検討しているところでございます。

（「分かりました」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 小川委員。

○委員（小川進一君） この修繕計画の中に、露天風呂というか外湯のほうが入ってないみたいなんですけど、これはもう修繕完了してるんですか。

○委員長（三上周治君） 観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 委員お尋ねの、今見られてる岩風呂の縁がへたってしまってるとか、地下ピットなんかの漏水とかというのは、緑色の棒グラフ、劣化状況調査部分のⅡ内装修繕とか、あとはⅣ機械設備更新とか、そちらのほうで修繕するように考えております。

○委員長（三上周治君） 他に質疑はありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（三上周治君） 1点、私から。今回は修繕が主なんですけど、例えばスクラップ・アンド・ビルドではありませんけど、観光案内センター、あそこのスペースをもう取っ払おうとかというそういう話は何も出てこなかったんですか。現実にあれ、あまり効果的なものじゃなかった。作っている人が言うのも変な話なんですけど、効果がないところの、修繕だけじゃなくてスクラップというのは今回のこれには話が乗らなかったんですか。

観光プロジェクト課長。

○観光プロジェクト課長（赤木郁哉君） 観光案内センターのほうは、今回修繕ということで直していく中で幾らか改良できたということ、先ほど申しあげました床材とか壁紙とかそういうのと、あと古い機材は撤去ということで、基本的にはあちらの観光案内センターはスクラップというのではなく、既存のまま残していこうかと考えております。

あまりいろんなものを壁に作り過ぎてしまうと、あそこで例えば何かをするときに使いにくくなりますので、汎用性を考慮して最低限の改修にとどめておるところでございます。

○委員長（三上周治君） 分かりました。

これをもって、質疑を終結いたします。

本件については、報告を受けたということにいたします。

以上をもちまして、本日の報告事項は全て終了いたしました。

これをもって、本委員会を閉会いたします。

閉会 午後1時35分